

令和8年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 10		学校名	県立友部東特別支援学校										学校長名	神山 茂俊					
副校長名						教頭名	大島 聖子					事務(室)長名	荒木 恵子							
教職員数	教諭	37	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	0	実習助手	2	寄宿舎指導員	0	事務職員	3	技術職員等	3	sss	1	計	52
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	1	0	2	1	0	0	0	1	0	1	0	2	3	5	4				
	中学部	3	3	2	1	1	2							6	6	4				
	高等部	3	2	1	0	6	0							10	2	5				
															小計	19	13	13		
														合計	32					

訪問教育	病院名	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計													
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計									
	県立こども病院	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	4	6				
	県立こころの医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1			
	筑波大学附属病院	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	5		
	県立医療大学付属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3	0	0	0	1	0	5	2	7
	土浦協同病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	1	0	2	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	2	1	0	2	3	0	0	0	2	0	10	9

2 目指す学校像

- ◆「夢や希望」に向かって、自分らしく成長できる学校
- ◆信頼とつながりを大切にする学校
- ◆安心・安全を基盤に、子供が主役として輝く学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール（CS）における、地域資源活用の土台が構築された。 ・教師間でチャット等を活用した情報共有が進み、迅速な問題解決が可能になった。 ・勤務時間を意識した働き方が浸透しつつあるが、事務作業の更なるスリム化の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CS 活動への児童生徒の参画を促し、より主体的なキャリア教育へと発展させる必要がある。 ・チャット等による情報共有に加え、教職員が本音で語り合える「心理的安全性の高い組織づくり」が求められる。 ・ICT（ワークフロー等）を徹底活用し、教職員が子供と向き合う時間を生み出す業務改善が必要である。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での ICT 活用が定着し、児童生徒が意欲的に取り組む姿が見られる。 ・ブログ等での情報発信が活発化し、教育活動の可視化が進んだ。 ・Co-MaMe 等のアセスメントツールを活用した実態把握の試行が始まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を「教員が提示に使う」段階から、「児童生徒が思考・選択・決定するために使う」段階へ引き上げる必要がある。 ・病気による学習空白を最小限に抑えるため、オンライン授業のさらなる質的向上が不可欠である。 ・Co-MaMe 等を活用したアセスメントを、個別の指導計画や日々の授業改善へより具体的に連動させる必要がある。

4 中期的目標

- | |
|--|
| 1 「子供が主役」の学びの確立：ICTを道具として使いこなし、自らの学びや生活を自分自身で選択・決定できる児童生徒を育成する。 |
| 2 地域と共にある教育課程の深化：CSを通じて地域や医療・福祉との繋がりを強固にし、社会的自立に向けた「切れ目のない支援体制」を定着させる。 |
| 3 ウェルビーイングを実感できる組織：対話と業務効率化により、教職員一人一人が高い専門性を発揮し、笑顔で子供に伴走できる教育環境を構築する。 |

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
①キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立を基盤とし、自律的な生活態度を養う。 ○小・中・高を通じた系統的なキャリア発達を促す「切れ目のない支援」を推進する。 ○学校運営協議会へ生徒が参画するなど、地域資源を最大限に活用した体験活動を充実させる。
②指導・支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインと対面をハイブリッドに活用し、個々の病状に応じた学習保障を徹底する。 ○ICT（CanvaやAI等）を児童生徒自身が活用し、「分かる・できる」を実感できる授業を展開する。 ○自立活動の視点を取り入れた教科指導により、困難を克服する力を育む。
③専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○Co-MaMe等のアセスメント結果を全教職員で共有し、組織的な個別支援を強化する。 ○医療・福祉機関との定例的な連携会議を通じ、最新の知見を指導に反映させる。 ○教職員のキャリアステージに応じた、実践的かつ主体的な校内研修を定例化する。
④センター機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン相談窓口を「心の居場所」として定着させ、不登校傾向にある児童生徒等への支援を広げる。 ○県内唯一の病弱特別支援学校として、培った専門性や事例を積極的に地域へ発信する。 ○ブログやSNS等、多様なメディアを活用した戦略的な広報活動を展開する。
⑤安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日実施する「心の健康観察」のデータを活用し、いじめの未然防止と早期対応を徹底する。 ○チャット・ワークフローの導入を完遂し、事務作業の大幅な効率化を実現する。 ○「楽しく仕事をしよう」を合言葉に、対話を軸とした風通しの良い職場環境を創出する。